2023 冬号

ひろまちだより

Hiromachi Ryokuchi Park in City of Kamakura

contents

特集	フクロウ
連載	樹木医日誌
催事	冬のイベント etc
ほか	冬の広町へ

①橙と黒の体色が目をひくジョウビタキのオス。おもに冬鳥として人里や都市部の公園などでよくみられる。②秋から冬にかけてよく見られる"モズのはやにえ"。「早贄(はやにえ)」は供え物の意味。モズのなかまは、捕らえた獲物を木の枝などに刺しておく習性がある。③エノキの葉の裏で冬を越すゴマダラチョウの幼虫。春になるとエノキの幹をのぼり、若葉を食べて成長する。④2年かけて実るクヌギのどんぐり。実は丸くて大きく、反り返った殻斗(かくと:帽子の部分)に包まれている。

寒くなってきましたね

ひろまちだより　2023 冬号（2023年12月発行）
発行　鎌倉広町パートナーズ

鎌倉広町緑地管理事務所
鎌倉市津 1133　TEL：0467-32-5112
http://www.kamakurahiromachi.com/

デザイン・編集　向田智也　　樹木医日誌：田中浩　写真協力：髙橋和也

夜行性のため、人目に触れる機会は少ないが、
冬場や悪天候が続いた時は昼間に狩りを行うこともある。

ウッディぴろしの樹木医日誌

Vol.16
ヌルデ
（ウルシ科）

広町緑地には、かぶれる成分(ウルシオール)を持つ樹木が数種類あります。ヌルデもその一つですが、皮膚が弱い人は少し気をつけた方がいい程度の強さです。葉っぱが並んでいる真ん中の茎(葉軸)にヒレのようなものがついているのが特徴で、注意して観察すれば見間違えることはありません。
かつて樹液を塗料として使ったため、「塗る手」が訛り、「ヌルデ」になったとも言われます。かぶれの強さも紅葉の美しさも同じウルシ科のハゼノキには勝てませんが、御所川沿いで主役をうかがっています。

葉を四方に広げて光合成をします。

秋には紅葉し、橙～赤色に染まります。

フクロウがいる広町には小動物がいっぱい

Hiromachi with owls and lots of small animals.

フクロウがくらすために必要なものは、大木の洞などのすみかと、ネズミやヒミズなどの小動物が豊富にすめる自然環境です。適当な巣の場所がない場合は、床下や木の根元などに巣をつくることもありますが、地上近くでの繁殖は卵や雛が外敵に襲われる可能性があるため、広町のように大木の樹洞が残る場所は、フクロウにとって貴重な自然環境です。
暗やみでも見える目、えものの位置を正確にとらえる耳を持ち、ひとたびえものを見つけると、音もなくおそいかかり、するどい爪でしとめます。

「ホッホー」と鳴いているのはアオバズク

フクロウの声はゴロスケホッホと低く、身近な神社や公園などで「ホッホー、ホッホー」と鳴いているのはアオバズクです。同じフクロウのなかまですが、アオバズクはフクロウよりひとまわり小さく、フクロウが留鳥なのに対して、アオバズクは若葉の頃に日本に飛来する夏鳥です。
おもにネズミや鳥を中心に食べるフクロウにとって、広町緑地のような鬱蒼とした林は好環境ですが、アオバズクは広く周囲を見渡せる場所を好み、寺社の大木や、市街地の街路樹などに巣をつくることが多いようです。

カラスほどの大きさのフクロウ　ハトより少し小さいアオバズク

イベント情報

1月21日（日）「冬の野鳥観察会」（定員20名・要申込み）
1月28日（日）子供向け「麦踏み・落ち葉かき」
2月下旬　　「そば打ち教室」
（要申込み・参加費600円・日程はHPでご確認ください）
3月23日（土）「大桜鑑賞会」
3月24日（日）子供向け「さといもの植え付け」
＊詳細は公式ホームページでご確認ください。

そば打ち教室

管理事務所よりお知らせ

広町緑地も冬の様子になってきました。冬の森は木の葉も少なく冬鳥の姿が見えやすかったり、虫も少なく苦手な人には快適だったり、なにより冬には冬のいい匂いが漂っていたりと、冬には冬の森が待っています。
ぜひ足をお運びください。